

受講番号 18006 学校名 安芸高等学校 氏名 久岡 懐子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 14名
 科目名 異文化理解 単位数(授業時数) 4時間 使用教科書名 Sonic Reading(桐原書店)、Japan Times Junior

クラスの様子・特徴

普通科の3年生の選択授業であり、英語に対する動機づけが高い。14名の少人数のクラスであるため、教室の雰囲気も和やかである。年度当初はおとなしい生徒が多いと感じたが、時間がたつにつれてそれぞれの生徒の個性がみられるようになった。

問題の確定

英語に対する意欲や意識は高いが、自己評価が低い。英文読解は得意であるが、音読や英語で表現することは苦手である。

予備調査

A 授業の観察

テキストの読解には熱心に取り組んでいるが、ただ読ませるだけでなく、達成感を感じさせる取り組みの工夫が必要である。新聞記事やALTとの英会話を授業に取り入れることで、授業で扱う英語が生徒にとって身近なものとなっているように感じられた。

B 生徒による授業評価

4月の英語力の自己評価ではほとんどの生徒が、読む・書く・聞く・話す・語彙に関して普通かそれ以下の評価で、得意と答えた生徒は3名、6月のアンケートでは、同じ項目で普通かそれ以下と答えた生徒が全体の56%、得意と答えた生徒が36%であった。

C 学力データ

語彙サイズテストによる語彙数は3000語レベルで平均723語(6月実施)。6月3日実施進研マーク模試(筆記)の平均点69点。授業で行ったセンター試験対応リスニング模試の平均点20点(6月)、24点(7月)。

リサーチ・クエスト

リーディングの教材を用いて、スピーキングやライティングの力を同時にのばしていくにはどうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

テキストである『Sonic Reading』と同時に、自分の意見を述べることを目的に、平易な英語で書かれた新聞記事の精読と多読を行うことにより英文を読むことがより身近になるのではないかと。

実践1

その時に行っているスピーキングの練習に活用できるトピックを『Sonic Reading』とThe Japan Times Juniorの中から選んで読むようにした。また、今年の7月から日本に来たALTが、日本に対して関心を持ったことを教材として扱った。1週間に平均2～3の文章を読んだ。2学期からは定期テストにおいて、25%の配点で始めて読む英文でT or Fの問題を出題した。

検証1

生徒に対するアンケートでは、読む力に関して、全員が「まあ力がついた」と回答した。定期テストのリーディングの分野においても、T or Fの問題に関しては高い得点率だった。英文を読むことに対する抵抗はなくなったように思われる。また、新聞記事を扱ったことによって、多少難しい内容でも内容を理解しながら最後まで読むことができるようになったように思われる。

仮説2

教員が授業を英語で行うことにより、生徒が原稿を見ずに英語を話すようになるのではないかと。

実践2

一週間に一度、ALTに授業に参加してもらった。1分間のスピーチから始めて、自分の意見を述べる表現を学び、あるトピックに対して、賛成と反対の意見を述べる練習を行った。また、リーディングが中心となる授業でも、できるだけ英語を用い、読み終えた文章は音読の練習をするようにした。

検証2

生徒に対するアンケートでは、スピーキングに関して全員が「まあ力がついた」と回答した。また、ALTとの授業がスピーキングに対してよい刺激になったという意見が多かった。1分間のスピーチは抵抗なくできるようになった。そして、あるトピックに対してどうしても意見を言いたい、と思うことがスピーキングの一番の動機づけとなったようである。

仮説3

自分の意見をまとめる英文を毎週書かせ、そのつど添削すると英語の語順の間違いが少なくなるのではないかと。

実践3

スピーキングで扱ったトピックに対して復習として自分の意見をまとめて書く練習をした。The Japan Times Juniorの記事を読み、全員で意見を出し合い、英訳していく練習を行った。2学期からは、定期テストで3割程度の配点で自由英作文を出題した。

検証3

アンケートのライティングの項目では、全員が「まあ力がついた」と回答したが、定期テストの自由英作文の点数は上がってあらず、ライティングの力がついたとはいえない。語順に関しても、自由英作文は内容が広範囲なため、添削指導が十分にできず、間違えた点を共有して次に生かしていくことができなかった。

研究の成果

今までの授業では少ない時間で出来るだけ多くの知識を学ばせようとしたため、成績は良くても英語が嫌いであったり、生徒の英語を学ぶ動機を省みることができなかった。この授業では、リーディングの内容をスピーキングと結びつけて指導することができ、生徒の英語に対する自己評価を高めることができた。また、授業で英語をできるだけ使うことを試みることができた。

今後の授業改善の課題

生徒の英語に対する自己評価は高まったが、数値としての成績が検証できていない。動機づけを高めていくことはできたが、語彙数やライティングに必要な文法を身につけさせることができなかった。リーディングや文法の授業を自由英作文の力へと結びつけることが今後の課題である。また、授業で英語を行う際の自分自身の表現力も今後の課題である。